

ほんぎょう  
本行 遺跡 1

鳥栖市教育委員会



本行遺跡遠景（南上空から）



北上空からみた本行遺跡

本行遺跡は鳥栖市南西部の江島町えじまにあります。ここは背振山地から南に延びる丘陵地帯の東側に位置します。この周辺は、市北東部の柚比丘陵ゆひと同様に多くの谷が入り込む地形で、遺跡が数多くあります。ここに工場が建設されるのに伴い、鳥栖市教育委員会が平成3年度から平成6年度まで発掘調査を行いました。

調査の結果、ここは弥生時代中期中頃から後期中頃（約2000～1800年前）を中心とした遺跡であることがわかりました。竪穴住居跡たてあなじゅうきょあとや掘立柱建物跡ほったてばしらたてものあと、それに遺跡のある丘陵を分ける幅約6mの大溝などが確認され、また石棺墓や甕棺墓などの墓地もみつかっています。ここからは青銅器6点や青銅器の鋳型12点が住居跡や土坑、大溝などから発見されたほか、青銅を溶かす炉ろに空気を送り込む送風管（ファイゴの羽口）などが出土したことから、柚比遺跡群と同時期同規模の青銅器を生産していた特殊な集落の存在が明らかになりました。





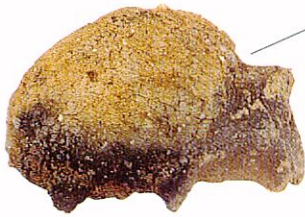
南上空からみた本行遺跡



弥生時代の大溝（東から）



小銅鐸



動物形土製品



鐸型土製品

